

世界で唯一の生態系 世界自然遺産の小笠原諸島

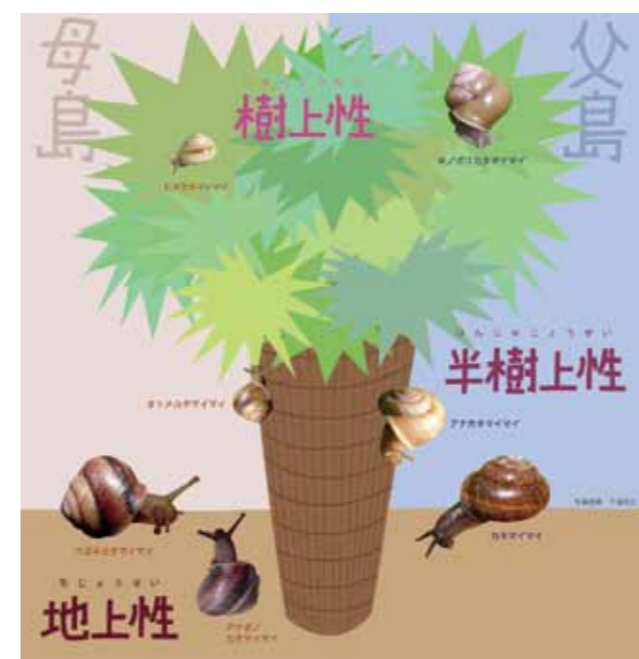
小笠原諸島は、東京から南に約1,000km離れた30あまりの島々の総称です。島の誕生以来、大陸と陸続きになったことが一度もない海洋島のため、独自の進化をした生きものが数多く生息しています。生物の進化の流れがわかる場所であることと、その生態系の価値が世界に認められ、小笠原諸島は2011年6月、世界自然遺産に登録されました。それ以来、島を訪れる観光客は増えてきましたが、小笠原諸島では、世界自然遺産になる前から、ルールを守りながら自然とふれあうエコツーリズムを行なっています。こうした貴重な生態系を守るために、島全体で外来生物の侵入に注意をはらっています。



オカモノアラガイ 提供:千葉聡

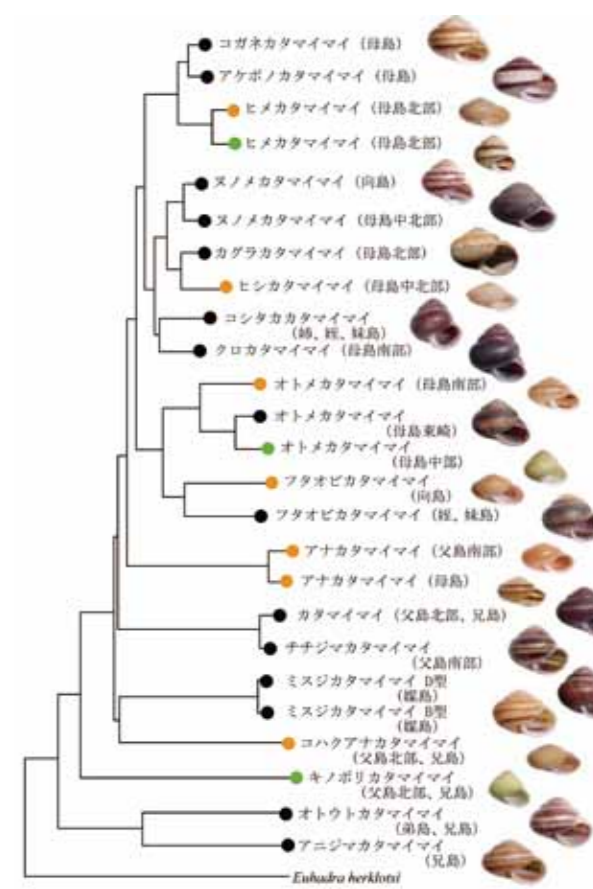
小笠原で生きる 動植物の進化

小笠原諸島では、もとは同じ種類でありながら、環境の違いのために、その環境で生きるのに都合のよい形や色に変化した生きものが見られます。このように環境で生きものの種類が分かれることを「適応放散」といいます。たとえば、小笠原諸島固有のカタツムリであるカタマイマイは、木の上で暮らすものは淡い色、土の上で暮らすものは暗い色の殻を持つなど、適応放散によっていろいろな種類に進化し、今もなお進化を続けています。ふつう生物の進化は化石との比較で推測されるものですが、小笠原諸島では生きている生きもので進化の過程を見ることができるのです。



色も形も大違い 環境にあわせて進化した 小笠原のマイマイ

小笠原諸島固有の陸産貝類(カタツムリに代表される陸地に生きる貝)は約100種類にもおよびます。数が多い理由は、環境に合わせて変化し、種類が増えたためです。小粒で緑色のキノボリカタマイマイも、その倍以上の大きさがあって色が黒いクロカタマイマイも、もとは同じ種類のマイマイです。小笠原のさまざまなマイマイの色や形は、進化の不思議な力を物語っています。



提供:千葉聡